

2017年度 事業計画

■ こばと会本部	P 1
■ こばと保育園	P 2
■ こばとっこ保育園	P 3
■ さくら保育園	P 4
■ さくらんぼ保育園	P 5
■ 特別養護老人ホームいのこの里	P 6～8
■ グループホームたんぽぽ	P 9
■ 吹田市山田地域包括支援センター	P10
■ 吹田市立亥の子谷デイサービスセンター	P11
■ 高齢者向け優良賃貸住宅さくら苑	P12

社会福祉法人こばと会

2017年3月25日

こばと会 法人本部

■ 理事会・評議員会開催日と主な内容

【理事会】	2017年6月1日(木)	2016年度事業実績および決算
	11月9日(木)	2017年度補正予算
	2018年3月8日(木)	2018年度事業計画および予算
【評議員会】	2017年6月16日(金)	2016年度事業実績および決算
	11月24日(金)	2017年度補正予算
	2018年3月23日(金)	2018年度事業計画および予算

■ 法人運営について

- ・南保育園、及び吹田保育園の引き継ぎが円滑にすすむように、担当職員が施設長会議で定期的に出席し、法人全体で支援する体制をつくります。
- ・吹田市サポート事業開始にあたり、吹田市山田地域包括支援センターの職員体制を強化します。
- ・社会福祉法改定に伴う諸規定の変更、人事体制を確立し法令に基づき適切な運営を行います。
- ・法人50周年事業の準備をすすめます。また、年明け以降の行事については、周年事業の位置づけとします。
- ・養成機関・大学等との連携を強化し、職員の再教育にもとりくみます。
- ・平成31年度にむけて、外部監査の準備を行います。
- ・こばと会報、ホームページを活用し、わかりやすい情報提供と公開に努めると共に、インターネットを活用した求人にもとりくみます。
- ・保育・介護保険制度等に熟知し、円滑に運営ができるよう支援を行います。
- ・福祉避難所の指定に基づいた協議や地区防災戦略会議など、地域防災問題に積極的に参加、役割を果たします。

■ 施設間の連携及び支援

- ・法人一年歴を作成し、行事・学習会などの効率的運営・調整に努めます。
- ・施設長会議を定期開催し、事業の進捗や課題を共有し、法人方針の執行を行います。また、保育園長会議、介護管理職会議を開催し、種別ごとの課題について具体化します。
- ・事業所間の専門職の交流を通じ、専門性を高めるとともに、合理的な運営に努めます。
- ・事故、ヒヤリハット、苦情等を事業所間で共有し、事故防止に努めます。

■ 各種研修および行事

- ・法人人権研修を他法人と共同してすすめ、地域に公開します。(6月29日)
- ・永年勤続職員表彰を行います。(2018年1月6日)
- ・3園交流研修会(7月1日)
- ・50周年法人新年会(2018年1月6日)
- ・法人管理者研修(2018年1月28)、新採用職員研修(2018年2月11日)
- ・会計担当者研修の実施

■ 地域・他機関とのとりくみ

- ・吹田市との懇談会をもち、制度改定での変化について理解を深めます。(7月下旬)。
- ・各地域の自治連合協議会をはじめ、地域住民の諸活動の中で必要な役割を果たします。
- ・労働組合等各種団体と協力共同できるとりくみに積極的に参加し、地域住民の福祉ニーズを共に解決し、行政にも届けます。

こぼと保育園

2017年度は、吹田市立南保育園の移管に向けた合同保育が始まります。担当保育士を孤立させることのないよう、報告を基に話し合いを行いながら、子ども保護者にとって、安心できる保育園となるように最善を尽くします。

こぼと保育園では、保育経験年数が短い保育士が増えていますが、皆で学び合うことを大切にし、ていねいな職員育成を行ってまいります。また、保育所保育指針改定に注視し、学習を行います。

- 4月1日の入園状況 定員 120名 入園名予定 129名
0歳児:12名 1歳児:22名 2歳児:24名 3歳児:24名
4歳児:24名(支援制度利用児1名) 5歳児:23名(支援制度利用児1名)

■ 職員人事

入職 國重彩奈(保)・石井雅子(保)・竜野翔子(保)・岩本愛里沙(保)・鮎川紗花(栄)
退職 下山友美(保)
育休復職 藪田咲子(保)
産休予定 石田育美(保)・伊口真希(保)
南保育園 山本勝也(保)

<地域に根ざして>

- ・子育て世代には、地域子育て支援拠点事業を中心に、細やかに地域の親子の支援や相談援助に努めます。
育児教室は、昨年同様も対象地域を市内全域に広げ、随時登録とし、保護者同士のつながりを大切にします。
- ・子育て相談や居場所づくりは、こぼとこ保育園で開始する一時預かり保育と連携しながら行います。
- ・子育て世代に限定せず、地域に貢献できる保育園として、スマイルサポーターを中心に福祉ニーズを適切に掴み、対応していきます。

<安心・安全の保育・環境>

- ・重大事故を起こさない為に「ヒヤリ・ハット」報告を大切にし、園全体でリスクマネジメントを行います。
- ・保育部門給食を合同献立にします。施設間交流を深めると共に、コスト管理を適切に行います。
- ・感染症予防と拡大を防ぐためのマニュアル充実と消毒の徹底を行い、園医、看護師による指導の下、正しい知識に基づく対応を行います。
- ・非常災害時の備蓄整備と備蓄物管理を行います。
- ・毎月実施する避難訓練について、年間計画に基づいて様々な場面を想定して行います。

<保護者とともに>

- ・保護者との連携・保護者支援について、より丁寧に対応できるように創意工夫を行います。
- ・18時～18時30分の延長保育料徴収について、意見交換を行います。
- ・園舎清掃デーを設け、保護者に協力を呼び掛けます。

<職員研修等>

- ・職員の自主学習、クラスや乳児、幼児での集団での学習が効果的に行えるように園として支援できる体制を整えます。
- ・職員自身が実践と理論を結びつけることが出来るような実践報告を行う機会を設けます。外部研修、他園見学等に積極的に職員派遣をします。これらの研修は、こぼと保育園職員のキャリアパスに位置付けます。
- ・職員が働き続けていくことで、保育のやりがいを実感できる集団討議や交流を大切にしていきます。
- ・ICT化を進めることで職員の事務効率化を促進します。
- ・副園長、主任の施設間交流をすすめます。

こばとっこ保育園

開園2年目となり、園児も増加します。何よりも安心安全の保育をていねいに行います。

小集団の乳児保育のあり方を模索しながら、就学前までの保育園に入園することが出来なかった保護者にも安心してもらえるように保育にあたります。

■4月1日の入園状況 定員 19名 入園予定 18名

0歳児：3名 1歳児：12名 2歳児：4名

■職員人事

入職 深尾こころ（保 契約）・福井優子（保 契約）

退職 南 ヒロミ（保 パート）

<地域に根ざして>

- ・4月1日より一時あずかり事業を開始します。就労・緊急一時・リフレッシュの枠を設け、定員3名で行います。地域のニーズを把握しながら、ていねいに対応していきます。
- ・子育て世代に限定せず、地域に貢献できる保育園として、地域住民の福祉ニーズを適切につかみ、対応していきます。

<安心・安全の保育・環境>

- ・重大事故を起こさない為に「ヒヤリ・ハット」報告を大切に、園全体でリスクマネジメントを行います。
- ・感染症予防と拡大を防ぐためのマニュアル充実と消毒の徹底を行い、園医による指導の下、正しい知識に基づく対応を行います。
- ・毎月実施する避難訓練について、年間計画に基づいて様々な場面を想定して行います。
- ・こばと保育園との連携を密に報告・相談・連絡を徹底します。

<保護者とともに>

- ・保護者との連携・保護者支援について、よりていねいに対応できるように創意工夫を行います。また、個別の相談がしやすい環境を整え、保護者が安心して相談や意見が言えるように工夫を行っていきます。
- ・転園希望の保護者の願いを受け止め、適切な助言を行います。

<職員研修等>

- ・職員自身が実践と理論を結びつけることが出来るような実践報告を行う機会を設けます。外部研修、他園見学等に積極的に職員派遣をします。これらの研修は、こばとっこ保育園職員のキャリアパスに位置付けます。
- ・職員が働き続けられ、保育のやりがいを実感できるよう集団討議や交流を大切にしていきます。
- ・ICT化を進めることで職員の事務効率化を促進します。
- ・保育所保育指針改定を注視し、こばと保育園と共に学習します。

さくら保育園

さくら保育園は今年度 15 周年を迎えます。吹田市立南保育園への異動もあり、たくさんの新入職員が仲間となります。約半分が新しい職員となりますが、経験者を含め丁寧な職員育成を行っていきます。

保育所保育指針の改定など、保育情勢を職員とみんなで学ぶことを大切に、保護者とともにより良い保育をめざします。

■ 今年度の職員配置と入園児の状況

定員 60 名 入園予定 71 名

0 歳児 6 名 (6 名)	1 歳児 11 名 (5 名)	2 歳児 13 名	
3 歳児 14 名 (2 名)	4 歳児 11 名 (2 名)	5 歳児 14 名	() 内は新入園児

■ 職員の異動

採用 (正職) 荒木裕真、沖 郁美、佐藤秀美、川原夏季、本城正代 (非正規) 杉本美沙子
(早朝パート) 白山まゆみ (夕方パート) 小田切佳代、松本みどり

産休 奥村香里 (年度途中で復帰予定)

退職 蒲原華奈子 (非正規)

異動 羽谷直子 (南保育園へ)

■ 今年度の重点項目

○15 年実践集を発行します。

<子育て支援・地域開放事業>

○子育て支援センター事業

(育児教室；毎週 1 回 年齢別 1 歳児、2 歳児グループ 後期 0 歳児グループ)

○地域開放事業 (こどもまつり、七夕、プール開放、運動会、クリスマス会、節分) 等

○地域活動事業 (世代間交流、異年齢交流、育児講座) ○一時保育自主事業

<安心・安全の保育環境整備>

○職員の入れ替わりがある中、職員集団の発展に努めます。

○照明 (LED)、空調、クロス等の改修を行います。(2 階 3 階)

○屋上の改修とプールの入れ替えを行います。

○ノロやロタ、インフルエンザ等の感染症予防に努めます。

○毎月 1 回の避難訓練をはじめ、総合訓練を行い、非常災害時の備品を整え子どもの生命を守るよう努めます。

○子どもたちが事件・事故に巻き込まれないよう、ヒヤリハットを改めて見直します。また、虐待から子どもを守るための子育て支援室、子ども家庭センター、小学校と連携を図ります。

○アンケート調査を実施して保護者の要望を掌握し、よりよい園運営に生かします。

<職員の研修等>

○新入職員が増えるので、悩みを話し合い仕事にやりがいを持てるようなカンファレンスを心がけます。

○保育所保育指針の研修を実施し、保育内容の充実を行います。

子どもたちが健やかな発達・成長が保障できるよう職員集団での学習を軸に実践し、研修に積極的に参加できる計画作成、保育のやりがいを実感できる、働き続けられる明るい職場づくりを心がけます。

■ 保護者・地域のみなさんとともに

スマイルサポーター (3 名) を中心に福祉の地域貢献に努めます。また、地域の人々との携わりを大切にネットワークづくりに参加し、地域の保育センターとしての役割を果たしていきます。“子育て力”は“地域の力”を大切に。すべての子どもたちの生命を守り、健やかな成長・発達を保障します。

さくらんぼ保育園

保育所保育指針の改定案が来年の4月からの施行に向けて出されています。幼児期の保育を小学校就学の準備期間と位置付けられていますが、今後乳幼児期に大切に育てておきたい力をしっかりと学ぶと共に、保育課程の見直しも必要となってきます。吹田の公立保育園の民間移管を受け、引継ぎがはじまりますが、若い職員と一緒にこぼと会の保育を守り発展させていきたいと思えます。

■ 4月1日の入園状況

定員 60名 入園予定 68名

0歳児：6名、1歳児：12名、2歳児13名、3歳児：12人（発達支援制度利用1名）

4歳児：13名（発達支援制度利用1名）、5歳児：12名

■ 職員人事

入職 黒川志保（保） 藤井隆也（保） 非正規 永谷紗香（保） 伊藤優太（保）

退職

産休予定 下井知子（栄）

<地域貢献>

- ・育児教室の取り組みや育児相談など、地域の子育て世代の支援に努めます。
- ・地域の会議や取りくみに積極的に参加し、地域の保育園としての役割を發揮していきます
- ・さくら苑、その他の高齢者施設と世代間交流をしていきます
- ・卒園児を中心に子育てに悩む親の会「さくらんぼサロン」を開催していきます

<施設の安全と環境改善のために>

- ・災害時に俊敏に対応できるように、月々の避難訓練を工夫していきます
（さくら苑との合同避難訓練、地域の防災訓練に参加）
- ・園舎の危険個所のチェックシートを作成し、担当者が定期的に点検をします
- ・救命救急の講習を受け、緊急時に対応できるようにします
- ・照明（LED）への移行について検討していきます
- ・日々のヒヤリハットを報告し、大きな事故につながらないようにしていきます、

<保護者とともに>

- ・アンケートで保護者の要望も聞きながら、行事についても検討をしていきます
- ・個人情報と言われる中、スマートフォンの利用について検討していきます
- ・保護者支援について理解と協力が得られるように、より丁寧な対応をしていきます。又「ご意見箱」を置き保護者の声を聞いていきます

<保育の質の向上のために>

- ・職員がやりがいをもって働き続けられるように、キャリアアップ、その他の研修をうけられるような体制づくりをします
- ・法人の理念と保育方針に基づいた保育を展開し、実践が理論に裏付けられた保育ができるよう、学習を重ねていきます

いのこの里

■ 社会福祉法人こぼと会 50 周年にむけて

2018 年介護保険の見直しにむけ、社会保障審議会介護保険部会の意見が昨年 12 月にまとめられ、今年 2 月「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律案」として国会に提案されました。今回の法案では、「地域包括ケアシステムの深化・推進」と「介護保険制度の持続可能性の確保」という 2 つの柱において、高齢者の自立支援と重度化防止、地域共生社会の実現を図ることが目標とされています。今年度は介護報酬改定の具体的な議論が本格的に進められることとなり、関係団体と連携しながら、私たち現場の声を届けていかなければなりません。

一方、福祉介護を支える介護人材の確保の課題は、より一層深刻な状況となっており、私たちこぼと会にとっても大変重要な課題となっています。

吹田市では 4 月から新しい総合事業「高齢者安心・自信サポート事業」がスタートし、軽度要介護高齢者の介護サービスの仕組みが変更となります

私たちこぼと会は、来年 50 周年を迎えることとなります。これまで地域と共に歩んできた法人の歴史を職員全体で振り返る大切な年度となり、より一層多くの方から信頼を寄せられる施設をめざし事業を進めます。

いのこの里事業計画は、以下の各計画で構成し立案します。

1. 利用者の援助に関する計画
 2. 地域福祉（在宅サービス）に関する計画
 3. 行事予定に関する計画
 4. 職員研修・育成に関する計画
 5. 職場環境の改善に関する計画
 6. 施設内整備、修繕に関する計画
 7. 施設運営管理に関する計画
 8. 部署運営計画
- } いのこの里全体事業計画
2017 年度予算

■ 重点課題

- 2017（平成 29）年 4 月より実施される新しい介護予防・日常生活支援総合事業が実施されることに伴い、利用者への丁寧な説明等の対応を行います。
- 経営基盤の安定を図るため、各事業の利用率の向上にむけてアクションプランを策定し、収入を確保すること、また支出内容を精査し経費削減に努めます。
- 既存の業務を分解し、簡素化と効率化を図り、職員の円滑な業務推進を図るため、施設部門においてインカムを導入します。
- 施設内の委員会活動を活性化し、介護の質の向上を図ります。
- 既存のマニュアルを再整備し、マニュアルの更新リストを作成します。
- 姿勢・活動ケア、おいしく食べることを目的とした「食事評価ツール S・E・A」の実践を推進し、食事介助技術の向上を図ります。

■ 入居者の援助に関する計画 ～入居者の尊厳を守るケアの実現にむけて～

- ・「いのこの里職員の援助チェックポイント」を現場実践で活用し、尊厳を守るケアの実践を発展させます。
- ・個別ケア、認知症ケア、看取りケア、生活リハビリの実践では、ご本人やご家族と共に取り組むことを大切に、より一層のケアの質の向上に努めます。
- ・健康管理、予防看護の視点から入院させないケアを追及します。（口腔ケアの充実）
- ・毎日、安全に安心して、おいしく食べて頂ける食事を提供します。
- ・リスクマネジメントの観点における“ひょっと視点”を職員間で共有し、職員全体の意識向上を図り、転倒・骨折ゼロにむけての取り組みを進めます。

- ・入居者の生活空間における音（ナースコール）の環境を改善するための取り組みを進めます。

■ 地域福祉（在宅サービス）に関わる計画 ～地域との連携、福祉力の向上を図る～

- ・行政や地域関係団体と連携を図り、非常災害時における災害弱者の拠点としての福祉避難所としての機能が発揮できるよう準備を進めます。
- ・生活困窮者に対しての支援のネットワークを図るために、吹田しあわせネットワークと連携し、総合相談支援をはじめ、生活レスキュー事業や就労訓練事業（いわゆる中間的就労）の取り組みを進めます。
- ・昨年度より実施しているユニバーサルカフェ「いのこカフェタイム」の取り組みを地域の方々と共に進めていきます。
- ・地域の団体と連携を図り、施設の専門性を還元する取り組みを進めます。
(いのこの里育てる会と共同で地域のつどいを開催、介護職員初任者研修講座、認知症サポーター養成研修の実施等)

■ 職員研修・育成に関する計画 ～心豊かな専門性あふれる職員集団の育成～

- ・高齢者虐待防止に関する研修に取り組みます。(外部派遣を含む)
- ・施設（組織）の職員育成力を高めるための研修システムやキャリアパスを再整備し、個別研修計画を作成し、主体的な職員教育に取り組みます。
- ・喀痰吸引等研修（50時間研修）に職員を派遣し計画的に養成します。
- ・“安全でよりおいしい食事”が提供できるよう、調理職員のキャリアパスの構築を進めます。
- ・非正規職員のスキルアップを図るための研修体系を再整備し実施します。
- ・新人職員の育成を丁寧を実施するため、チューター制度の確立を目指します。
- ・21老福連主催の職員研究交流集会の成功にむけて、職員の力を結集して取り組みます。
- ・法人内の職員交換研修を積極的に進めます。

■ 職員の労働環境改善に関する計画 ～働き続けることができる職場環境づくり～

- ・介護職員処遇改善加算を活用し、職員の処遇改善に取り組みます。
- ・記録業務の省力化に取り組み、記録残業ゼロを目指します。
- ・職員が健康で働き続けることができるよう、腰痛予防やストレスマネジメントに取り組み、心身ともに健康な職場環境づくりに取り組みます。
- ・利用者、職員とも負担なく安全な介護が実施できるよう、ノーリフトポリシーの普及啓発と介護リフトを積極的に導入する。

■ 施設内整備・修繕に関する計画

- ・2Fフロアに浴室を整備し、機械浴槽を設置します。
- ・機械浴槽、1F洗濯機を更新します。

■ 運営管理に関する計画 ～民主的な施設運営の実践にむけて～

- ・法令等を正しく理解し、適切な記録と個人情報管理に努めます。
- ・施設の情報公開をより一層進めるため、ホームページの充実を図ります。
- ・苦情内容とその対応について、HPや広報誌において積極的に公表します。
- ・感染症予防対応マニュアルの見直しを随時行い、「ファーストクリーニングコンセプト」方式を導入し、日常の清掃方法を見直し、より一層の感染症予防対策に努めます。
- ・災害時における緊急出勤体制や緊急連絡網を再度見直し、より具体的なマニュアルづくりに取り組みます。
- ・2018（平成30）年4月介護報酬改定にむけて、いのこの里育てる会や21老福連、吹田社会保障推進協議会等と協働し基本報酬を引き下げさせない運動を進めます。

グループホームたんぽぽ デイサービスたんぽぽの広場

■ 利用者の援助に関する計画

- ・ ホームの人員（9名）を基本とした運営を行います。また、その際、1名の主任をフリーとして位置づけます。
- ・ 入居者の外出等の支援を強化します。
- ・ ケアプランにかかる記録類を簡素化、統一します。
- ・ 各種委員会の活動の適正化をはかります。
- ・ 医療部門連携会議をはじめ、看護師、調理スタッフ等、関係機関との連携に努め、チームケアを充実させます。
- ・ 季節に合わせた行事を実施します。
ピクニック（5月13日）長月会（9月16日）忘年会・もちつき（12月2日）

■ 地域福祉に関する計画

- ・ 「吹田市山田地域包括支援センター」の体制を強化し、地域のサポート事業の実施に努めます。
- ・ 福祉避難所の実践的な訓練を行うとともに、必要な備品の整備に努めます。
- ・ 地域の認知症ケアの拠点として、認知症サポーター養成講座、初任者研修の講師など役割を果たします。
- ・ 運営推進委員会を定期開催し、地域のニーズに積極的に応えられる運営に努めます。
- ・ 「ボランティア感謝の集い」(年度末)を実施し、ボランティアの交流とふりかえりを行います。
- ・ 地域行事に積極的に参加し、地域の関係団体との連携を図ります。
- ・ 育てる会の行事に参加し、地域福祉の増進に役割を果たします。
- ・ 家族会、労働組合とともに吹田市と懇談を行い、福祉行政のあり方を共に考えます。

■ 施設運営管理に関する計画

- ・ サポート事業としてのデイ受け入れを行います。
- ・ たんぽぽ内全ての事業、及びスタッフが協力し、運営を支え合います。
- ・ 家族会で、フロア別懇談を行い、風通しのよい運営にいっそう努力します。
- ・ たんぽぽ、いのこの里、亥の子谷デイの合同会議に参加し、記録の統一や連携を行います。

■ 職員研修、育成、働きやすい環境整備に関する計画

- ・ 多様な労働時間や内容を精査し、働きやすい環境整備に努めます。
- ・ 各種学習会について、法人と連携しつつすすめます。
- ・ 認知症介護実践者研修をはじめ、職員の資格取得の支援を行います。
- ・ 法人内外研修に積極的に参加・役割を果たします。
- ・ 管理者と職員の面談を実施します。(12月)
- ・ 職員互助会の運営を支援します。

■ 施設内の整備・修繕に関する計画

- ・ デイサービス送迎車の買い替えを行います。(白ファンカーゴ)
- ・ LED照明の入れ替えを行います。

吹田市立亥の子谷デイサービスセンター

(吹田市指定管理受託事業)

■ 利用者の自立支援に関する計画

- ・担当制による利用者支援の充実を図り、多職種が連携したチームケアを実践します。
- ・ケアプランに基づき、生活機能・QOLを高める支援を推進します。
- ・「休まず」「入院せず」元気に通所していただける健康管理に努めます。
- ・安全でよりおいしい食事が提供できるよう、いのこの里厨房と連携します。4・10・12月にバイキングを実施します。
- ・「家族交流会」を開催し、家族支援の取り組みを行います。

■ 地域福祉に関わる計画

- ・関係機関と連携を図り、「地域 de 生き生き健康講座」(出張編含む)を開催します。
- ・亥の子谷コミュニティ協議会、山三公民館の行事や取り組みに協力します。
- ・親子リズム体操や地域の子ども達との交流の場を設け、多世代交流の取り組みを進めます。
- ・「こどもの安全見守り地域防犯パトロール活動」を行い、地域の防犯力向上に努めます。
- ・大阪府社会福祉協議会が実施する生活レスキュー(社会貢献)事業の推進を図り、生活困窮者支援の役割(中間的就労を必要とする方々の受入体制整備など)を積極的に果たします。
- ・吹田市介護保険事業者連絡会、吹田市特養連絡会デイサービス分科会、吹田市地域ケア会議等の運営に協力し、吹田市内の高齢者福祉のネットワーク作りに参画します。

■ 施設運営管理に関する計画

- ・4月から実施される「サポート事業」への円滑な移行と2018年4月の介護保険制度改定に向けた準備を進めます。
- ・非常災害時及び防災に関するマニュアルの整備を行います。
- ・福祉避難所開設訓練を行うとともに、必要備品の整備を行います。
- ・感染症予防のための環境及び備品の整備に努めます。
- ・いのこの里、たんぼぼ、亥の子谷デイ合同会議に参加し、援助実践を発展させる取り組みを進めます。
- ・亥の子谷コミュニティ協議会、その他関係機関と連携し、地域ニーズの把握に努め、地域に根ざした運営を進めます。

■ 職員研修、育成、働きやすい環境整備に関する計画

- ・利用者の尊厳を守り、適切なケアが行える職員育成を行います。
- ・キャリアアップに向けた支援に努めます。
- ・計画的な研修を実施するとともに、いのこの里、たんぼぼで開催される学習会に積極的に参加します。
- ・21老福連主催の研究交流集会に参加し、全国の実践を学びます。

■ 施設内の整備・修繕に関する計画

- ・機械浴室を個室へ変更するための検討及び改修工事を実施します。
- ・設備の老朽化に伴う修理・修繕について、吹田市と協議のうえ計画的に進めます。

吹田市山田地域包括支援センター

■ 利用者の援助に関する計画

- ・要介護状態等となることを予防するため、自立支援型ケアマネジメントを実施します。
- ・通報や相談があれば、早期対応し、虐待の未然防止・早期解消に努めます。
- ・高齢者の多様な相談に応えるため、医療、介護、民生委員、自治会、様々な関係者とのネットワーク構築に努めます。
- ・地域の介護支援専門員の相談に応じ、利用者支援をともに考えます。

■ 地域福祉に関する計画

- ・地域の介護予防の拠点として、介護予防教室等を開催します。
- ・住民の要望に応え、認知症対策に認知症高齢者徘徊搜索模擬訓練の協力や支援を行います（11月）。
- ・成年後見制度の紹介、消費者被害の対応や啓発に努めます。
- ・地域のニーズや課題を把握するため、積極的に地域のサロンや集会等へ参加するとともに、社会福祉協議会や生活支援コーディネーターなど関係機関との連携に努めます。
- ・地域密着型通所介護の運営推進会議へ参加し、地域福祉の増進をともに考えます。

■ 運営管理に関する計画

- ・市の介護予防・日常生活支援総合事業の開始にともない、マニュアルに倣い、円滑に事業を進めます。
- ・グループホームたんぼぼ・デイサービスたんぼぼと協力し、円滑な運営を支え合います。
- ・法令を遵守し、個人情報の管理に努めます。
- ・センターの周知をより進めるため、定期的に「山田地域包括だより」を作成します。
- ・こばと会居宅部門責任者会議や行事へ参加し、法人間の連携に努めます。

■ 職員研修、育成、働きやすい環境整備に関する計画

- ・情報の共有化および伝える力を高めるため、会議や研修後の伝達を徹底します。
- ・内部研修を実施するとともに、専門性を高めるため、法人内外の研修や学習会へ積極的に参加します。
- ・21老福連主催の研究交流集会に参加し、全国の実践を学びます。
- ・管理者と職員の面談を実施します。

■ 施設内の整備に関する計画

- ・職員体制の強化（3→4人体制へ）にともない、事務所を再整備します。
- ・玄関及び相談スペースを相談しやすい環境へ改善します。

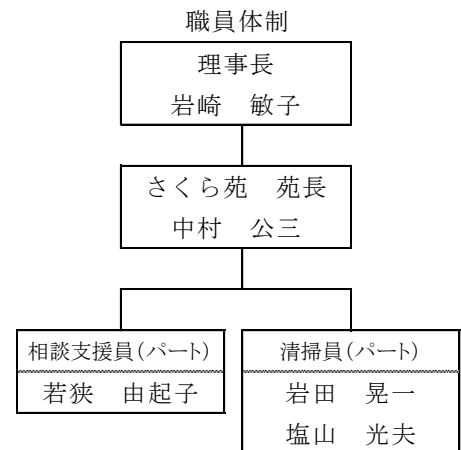
高齢者向け優良賃貸住宅 さくら苑

■ 入居者・自治会への支援に関する計画

- ・2か月に1回、自治会懇談会を開催し、入居者の声を運営に反映します。
自治会開催予定 5月25日 7月27日 9月28日 11月23日 1月25日 3月22日
- ・自治会終了後の手作り食事会、自治会開催月以外に入居者の希望を聞き、お茶会や外食などを計画し懇談・交流を深めます。
- ・山三地区自治連合協議会定例会に出席し、地域との連携に努めます。
- ・行政手続き等の代行・支援を行います。(大阪府高優良住宅家賃減額補助申請、インフルエンザ予防接種一部負担金) また、赤い羽根共同募金、吹田市社協賛助会費、日本赤十字社活動資金、吹田市交通災害・火災等共済申請のとりまとめを行います。
- ・季節に合わせた行事を開催します。(予定)
花見 4月4日(火) 秋の日帰り旅行 12月7日(木)
忘年会 12月21日(木) 新年祝う会 1月1日(月)
- ・買物・通院など希望により送迎支援を行ないます。

■ 地域福祉に関する計画

- ・さくらんぼ保育園との交流行事
 - お食事交流会・お茶会(毎月第4火曜日)
 - 平和の集い(8月下旬) ○ 運動会(10月)
- ・いのこの里(育てる会)
 - チャリティーバザー 6月11日(日)
 - チャリティー映画会 7月27日(木)
 - もちつき大会 12月24日(日)
- ・地域の行事
 - 山三地区ふれあい昼食会(年6回)
 - 山三夏まつり 8月19日(土) ○ 山三地区防災訓練等への参加



■ 施設の運営管理に関する計画

- ・入居者の安否確認を毎日行います(朝9:30~10:00)。また、いのこの里ケアプランセンターと協力し、入居者の相談・支援に努めます。
- ・夜間(19時~翌朝7時)は、オンコールによる緊急時の対応を行ないます。
- ・火災や災害時の避難訓練をさくらんぼ保育園と協力して行います。また、さくら苑独自で出火場所に見合った避難(一時避難場所)訓練を実施します。
- ・「こんにちはさくら苑です」を毎月発行します。
- ・いのこの里配食サービスの注文、配達を行います。
- ・電気使用量など、各種情報提供に努めます。(毎月)

■ 職員研修・育成、働きやすい環境整備に関する計画

- ・情報の提供・共有化を図り、快適な環境整備に努めます。
- ・毎月職員会を開催し、仕事の進捗・予定等の確認を行ないます。

■ 施設内の整備・修繕に関する計画

- ・竹林の伐採(5月、1月)、エアコン・換気扇等の清掃(6月、12月)、排水管の洗浄(3月)など環境整備・維持管理を行ないます。
- ・照明器具のLED化(さくらんぼ保育園含む)を行ないます。